

ニューヨークでニューイヤーズイブ

大晦日を最も騒がしく狂える場所といえ
ば、やはりニューヨークです。私には、習慣
になった大晦日の過ごし方というはなく
て、自宅で静寂に過ごす年末もあれば、実家
に帰って両親と一緒に楽しむ年末もありま
す。そしてたまには、Big Appleと呼ばれる
ニューヨークの熟れた果実をかじりたくな
ってしまいます。以下は、本原稿期限の日には
まだ来ていない大晦日のニューヨークの話で
すが、実は昨年のものです。

12月31日の早朝、私は、ワシントンDCか
らニューヨークへ30ドルでいけるバスに乗り
ました。アケボノの気だるい光の中、年末の
最悪な渋滞がまだ始まっていない高速道路を
走るバスの揺れに合わせて、ニューヨークま
での330km・4時間をほとんど眠っていま
した。ニューヨークに着いた時には、刺激的で
派手なドレスやスーツを身に着けた洒落た若
者たちが既にみうけられました。彼らはほろ
酔い加減でたむろしているように見えまし
た。みんな夜のイベントを待ち焦がれている
のでしょ。



私の暮らしているワシントン・DCでは、
ワシントンモニュメントより高いビルを建て
られないため、摩天楼の多いニューヨークに
来るたびにビルの高さに脅かされます。その
摩天楼群の間で、ニューヨークに住む友人と
共に過ごした一日はあっという間に終わり、
冬の夜のとぼりが早く降りてきました。我々
が行くパーティは午後9時から午前2時まで
続く予定で、まだまだ時間があります。

そのパーティは参加費が高かったにもかか
わらず食事が含まれていないため、先に何か
を食べておかないとヤバイと二人は思ってい
ました。東京のお茶ノ水に3年住んでいたそ
の友人は、ニューヨークの一風堂でラーメン
を食べたいと言いました。私にはそれに
抵抗する意思はまったくありませんでした。

一風堂では、写真のとおり、日本でも飲ん
だことのないほどに旨いベルギー風の「銀河
高原」ビールがトンコツラーメンにぴったり
でした。すでに大晦日の夜用の服に着替えて
きている人もラーメンを食べていたのが、や
けに不自然でした。一風堂を出てからも日本

の雰囲気を持続するつもりで、スターバックスで抹茶ラッテを買い、それをニューヨーク Public Libraryの裏庭で飲みました。

そうこうするうちに、慌ただしい街の年末の一番激しい瞬間が近づき、私たちはパーティ会場に辿り着きました。荒れるに決まっているこのパーティに相応しく登場するよう、私は、私のクロゼットにあるものの中から最もクレージーな服を着てきたのですけれども、他の参加者と比較すると私は軽装で足りなかった気がしました。現場は、「一番激しい瞬間」に相応しい格好の人で溢れており、私の「静かな」服装は保守的に思われたでしょう。話題になっていたレディー・ガガの「生肉ドレス」に似たドレスを着ている女性も現われました。ラーメンを食べたばかりの私でしたが、それを見ていきなり牛角のカルビを食いたくなかったのです。

イベントはSimyone Loungeという、ニューヨークのMeat Packing Districtにあるラウンジで行われました。「生肉ドレス」がピッタリ(?)ですね。壁の作りは、「ブレードランナー」の映画のシーンにあった未来の建物と同じスタイルで四角い穴だらけでした。そして、強い光が厳しいオレンジ色と紫色との間で交錯していました。

パーティは飲み放題のプランで、求心力でも備えているかのようにバーの周りが特に混んでいました。

注文しようとする私の友人に知らない男がわざとぶつかり、喧嘩を売ってハプニングを起こそうとしました。しかし、驚いたのも束の間、その男は突然気が変わりやさしくなって、年末の挨拶を言ってから友人を抱き締めました。私と友人は、驚きで酔いが醒めてしまいましたよ。

カウントダウンの準備が始まりました。タイムズ・スクエアに立っていたら、花火のような光と輝く巨大なボールを見ながら、過剰に混んだ人波の温もりで寒さから生き残れた



でしょう。私たちがいたラウンジは、外の寒さからは無縁でしたが、盛り上がる熱が暑すぎました。飲むビールの冷たさで生き残っていたと言えるかもしれません。飲み放題でよかったです。

午前0時になって新年が明けた瞬間、周りの男たちがヤドリギの小枝を持ち上げて、近くに立っている女性にむかって無理やりの口付けを願っていました。去年の疲れ・苦悩を川に捨てるように“亡年”できる人類の巧みさを誇りに思うべきなのかもしれません。去年に何があったとしても、それらを綺麗に洗い流した精神と共に新年に挑戦する人類の才能は見事なものです。

さあみなさん、B'zの歌詞のとおり「…薄暗い明日になだれ込みましょう… BANZAI！」。

筆者紹介

ネルソン・グラム

U.S. Attorney (Virginia Bar), Global IP Counselors, LLP 所属。

1981年米国バージニア州生まれ。ジョージ・ワシントン大学 (DC) で国際関係論を学びながら、ウルグアイ大使館でインターン。卒業後、2003年渡日、香川県三野町 (現在三豊市) の国際交流協会にて一年勤務。うどんが大好物となる。帰国後、ジョージ・メーソン大学ロースクール卒。2008年8月からGlobal IP Counselors, LLPに弁護士として勤務。趣味は読書、運動。好きな言葉は「鳴かぬ蜚が身を焦がす」。